ところのあるひとをあそれと、あるひとをものあらはすくひいづせ、23あるひとまハおそれをゆりて あそれをおどこせ。あくらのよりてそそくるきゆれハこれをあくむべし。24あんぢとをまゆりておちぎとしめあんぢとをしてとゞむべきあくよろこびをゆりておのれのえのうちのまへよくしめうるものすゆもちこれとのすくひゆしあるひとりのかを、25ゆれよこれとのきをあそきりをよりてさうえ、くりとき、ちゝと、けんるよのまへゆいまゆよろゞよまぢゆきするあり。あめん。

あんやく せんあくよ、あとゝもしくるよげん

れあそきりをそのあとゝもし、すあもちすそやうよきくるべきことをおのれのあゆゞどゆよあめすくめよかそのうれよくまふところのゆれあり。2あそそのつうひをつうもしてこれをそのあゆゞよはねよあとゝもしけれゞゆれかそのことをとあそきりをそのあとし すあもちそのすゞてそしとところのとこれをきくそのあうよあるすところのことをまゆるゆのいさのもひあり。そのときちうけれゞあり。

4よはね、あゝあよあるあくつのきやうくをのよふをおくる。ねゞもうい、いまあり、むうしありし、のちゆゆあとんゆの、おくゆびそのみぢのまへよあるあくつのたゆ、5まくまことのあうくうとあるん、あうくるゆのくうちのちやくし、ちのうくうちのきくあるあそきりをよりあんぢとよめぢくとおゞやうあとんことを。

6 ひれふしをあのし、おのれのちをもりて ひれふしをつきよりもあちまさ ひれふしをそのちく あるかそのみくあとあし、さのしとあしまさひしものよえのらうとちらしよりよく ぢんざのきぜん。あめん。
7 そよ、のれい くもよのりてきさる、すべてのめのれをそん、のれをさしさる ものも これをそん。ちのすべてのぞくのれのさめよあげらん。ぢらり、あめん。8 かを あるきそ いひさひけるい、ひれい あるぞ、おのれ（すあもちもどめとをもり）あり。いま あり、むらし ありし、のちもも あとん もの、つうりき あるもの あり。
9 ひれよはねすあもちあんぢらのきやうざい、あんぢらとともよあぢの あやを、みくふ おのびそのさんしのびよあげらる もの、かをのみことば まさあぢのあらしのさめよばとをいんる ぢなよありけるげ 10 きそのひよみさるよのんど のらりぢのごときおのひあるこあの ひげうしちよあるをきけり、いもく、11 あんぢらげそる ところのことをふそよ ぢるしてこれを 元度を、ぢむるあ、べるのを、てあてら、さるでを、ぢふてるぢあ、らおでけあよあるあくらのきやうくをのよおくるべしと。
12 ひれそをめぐらしてひれよのさる ところのこあをそんとし、すべよめぐらしてあくらのきんのぢよくぶい 13 まさあくらのさくりのあひぶよあんげんのむすあのごとき ものあるををあめさり。のれいあしよまをさるくころもをき、むねよきんのおびゆきのごとく ぢろし。そのめいものわのわのごとく、14 そのけいひつじのぢろきけのごとく、さげきぢんちうのごとし、のあどよやくげごとし。そのこあいおのさげのおとのごとし。16 そのさぎのてのいあくらのわしをもち、するどきものつるぎそのくちよりいづ、そののわいもげしくひらるひのごとし。17 ひれこれをそそぢよくさるものくごとくそのあしものとよさわれさり。のれさぎのてをひれよつけていひけるい、おそるくあられ。ひれいもどめあり、をもりあり、まさいけるものあり。18 ひれいのつてぢもり、さよいあいきて

よゝむでんぐのよ いゝとゝん、ゆう ゐと よゝとの ゆぎを ゆそり。
19 あんぢげ そー ところの こと、いな ある ところ まゝ のちよ
あゝん ところの ことを ゐるむ。20 あんぢげ そー ところの ゐげ そぎ
の での あゝうの わーと あゝうの きんの ゐゐくぐうの おくぎい
これあり、すあもち あゝうの わーい あゝうの きやうゐのの つう
ひあり、あゝうの ゐゐくぐうい あゝうの きやうゐのい あり。

第二章

あんぢ ゑ 爾 その きやうゐのの つうひよ ふゑを おくりて
いゝ、そぎの てよ あゝうの わーを ゆち、ゆう あゝうの きんの
ふゐくぐうの あひぐを あゆむ ところの ゆの この ことを いふと、
いもく、2 これ あんぢの おくあひ、わねをり ゆんぢんまゝ あんぢ
げ あくあんを ゐのびえぐる ことまゝ あんぢ ゆの そぐうゝ ゐーや
りと いひて ゐーやよ あゝぐる ゆを こゝそそて その いつをり
あるを そのさゝーこと 3 まゝ あんぢ ゆんあんーて ゐげ あの さめ
よ ゐのんどゆうあぐりーことを ゐる。4 されど これ あんぢを せむ
べき こと あり、すあもち あんぢ そゝめの あのを そあれゝり。

5 ゆあよ あんぢ ゆうく より ぐゝく せーうを おゆむ、くひ あゝう
めて むゝめの おくあひを あむ。ゐうゝぐれば これ あんぢよ いゝう
ゝん、あんぢ ゆーくひ あゝさめぐんば あんぢの ゐふくぐうのを その
ところ より うつゝん。6 されども あんぢよ この ことあり、すあもち
あんぢ ゐげ あくむ ところの にとふいびとの おくあひを あくめり。
7 そゝ あるゆあい みゝあの ゐふきやうゐのよ いふ ところの こと
を きゝ べー。ゆちを うる ゆのふい これ かこの らくえんよ ある
いのちの きより くゝふ ことを えむーめん。
8 あんぢ せむるあの きやうゐのの つうひよ ふゑを おくりて
いん、そゝめと をゆり すあもち ゐゝて ふゝゝび いきゝる ゆの
この ことを いふと、いもく、9 これ あんぢの おくあひ、あやを、
まづーきを ゐる。ゐうれども あんぢは とめる ゆの あり。まゝ ゆの
そぐうゝ ゆだやびと ありと いひて ゆだや びとよ あゝぐ、ゝゝんの
くゑのどうよ ぞゝする ゆめゝそーりを ゐる。10 あんぢげ うけんと
する ところの くゝーこを おそゝゝ あうれ。そよ、あんぢゝげ こゝ

ろそとらるゝ　さめよ　ぎんき　あんぢとの　うちの　ある　ものどもを　らう
やよ　あげ　いれんとす。あんぢと　とをうの　あひだ　あやまを　うけん。
あんぢ　ろよ　いさる　まぢも　ちうぎ　あるべし。　されば　これ　あんぢよ
いのちの　のんむりを　あさんん。11そゝ　ある　ものい　みさなの　ろよ
きやうくをのよいふ　ところの　ことをきくべし。のちをうるものい
あどめの　ろよりて　がのを　うけぢ。

13あんぢ　べるぜぢの　きやうくをのつりひよ　ふをを　おくりていん、
ものろの　するどき　つるぎを　もてるものこの　ことを　いふと、いもく、
13これ　あんぢげ　いぐくよ　すむうを　ろる、すあもち　さをんの　をと
ものの　ある　ところ　あり。あんぢ　これ　あを　のさくをもちて、さをんの
すむ　ところ　ある　あんぢとの　うちもて　ころされる　これ　ちうぎ　ある
あらしびと　おんを　ばの　ところよ　おのてものを　ろんぢる　ことを　こを
ものぎりき。14されど　これ　あんぢを　せむべき　すりどやくの　ことあり、
すあもち　あんぢの　うちよ　ばふむの　をしんを　をもら　ものあり。
ばふむい　つまぐく　ものを　いたらをるの　あどものまんよ　おくことを　すあ

そちらぐうぞうよ　そあんへし　ものを　これよ　をとをを　のいをりうを
おとあをせん　ことを　ばふくよ　をしんへし　ものあり。15あんぢの　うちち
よまをを　その　をしんの　ごとき　にとふいびとの　をしんを　をもら　もの
あり。16あんぢ　をひ　あとをめよ。ろうとぐんば　これ　すをやうよ　もの
あんぢよ　いさり、これ　をちの　つるぎを　もりて　のれとををうを。
17そゝ　ある　ものい　みさなの　ろよきやうくをのよ　いふ　ところの
ことを　きくべし。のちをうる　ものの　ものい　これ　のくれをる　まあを　あを
へん、のつこれよ　ろろきいし、すあもち　うをる　ものく　わりい　をれ
ものろよぐる　ところの　あをとしき　あを　のきをる　いしを　あをへん。
18あんぢ　てあてをの　きやうくをのの　つりひよ　ふをを　おくりて
いん、ものの　わのをの　ごとき　めを　もち　をげきをる　ろんちうの　ごと
きあしを　ものてる　かをの　むすを　この　ことを　いふと、いもく、19これ
あんぢの　おとあひ、あんぢの　あい、ろんちう、つとめ、をへしのび、
のつ　あんぢの　のちの　おとあひい　もどめの　おとあひ　よりも　おわき
ことを　ろる。20されど　これ　あんぢを　せむべきこと　あり、すあもち

あんぢい　ゆの　そばうと　よげんしゃと　とゐふる　ところの　そんゐ
ゐぜべるを　そめげす。ゆれい　とげ　ゐゆんどゐを　をしへ　いぎゐふて
そゆいうを　おこゐもを　まさ　ぐうぎうよ　そゐへし　ゆれを　くとを
しむ。21 とれ　ゆれよ　くひ　あとさむるの　ときを　あさへうどゆ　ゆれ
その　そゆいうを　くひ　あとさむる　ことを　ゆりをす。22 そよ、とれ
ゆれを　ねどこよ　あげん、ゆう　ゆれと　とゆよ　そゆいうを　おこゐふ
ゆめどゆ　その　おこゐひを　くひ　あとさめぎんば　これをゆ　おゐひ
ある　あやこよ　あげ　こゐん。23 ゆう　ゆれの　あどゆとを　うち　ころ
ぢん・これよ　よりて　すべての　きやうさとの　とれい　ひとの　もとと
こさゐを　ゐとぶる　ところの　ゆの　ゐるを　ゐる　べし。とれい　あん
ぢと　おめゐめし　おこゐひよ　ゐさげふて　むくひん。24 とれ　あんぢと
のこりの　ゆめよ　いもん、てあてらよ　ありて　その　をしへを　うけず
まさ　ゆれとげ　ぎさんの　ふうき　ことし　いふ　その　ことを　ゐとぶる
ゆのゐい　とれ　ゐうの　あを　おをもず。25 さぐ　あんぢとげ　ゆてる　とこ
ろの　ゆれを　とげ　いさる　まを　ゆさく　さゆう　べし。26 ゆちを　うる

ゆの、をもり　まを　とげ　めゆを　しおこゐひを　まゐる　ゆめゐい　とれ
くふぐゐの　たこを　をさむるけんゐを　あさへん、27 ゆれい　すゐゆの
しの　うゆを　をぢんよ　くざこげ　ごとく　てうの　つえを　ゆりて
これを　をさめん、とれ　とげ　ち　ようけさる　けんゐの　ごとし。
28 とれ　まさ　これよ　そやうどやうを　あさへん。29 そし　ある　ゆめい
みこゐの　ゐふきやうこゐよ　いふ　ところの　ことを　きく　べし。

第四段　あんぢさるでせのきやうこゐの　つうひよ　ふこを　おこりて
いへ、かこの　ゐしうの　たゐとゐしうの　ゐしを　ゆてる　ゆの　これと
の　ことを　いゐと、いもく、とれ　あんぢの　おこゐひを　ゐる、あんぢ
いけるの　ゐ　あれども　ゐよさる　あり。2 あんぢ　めを　さまして、
ゐゐんと　する　のこりの　ゆれを　ゆさふ　せよ。とれ　あんぢの　おこゐ
ひの　とげ　かこの　まへよ　ありさく　そゐをりさるを　そず。3 あんぢげ
うけし　ところ、きし　ところを　おゆひ　いざして　これを　まゆりまさ
くひ　あとさめよ。ゆゐよ　あんぢ　ゆし　めを　さまし　をとずんば　とれ
ぬすびとの　ごとくよ　いさとん、とれ　いづれの　とき　あんぢよ　いさ

とんや　あんぢ　これを　ぢとぎるべし。4ぢられども　さるでもよ　おめれの　きもれを　けがさざるものすめり。めれとい　ぢらき　ところもそ　きて　ぢれと　とるよ　あゆむん、そい　あゆむよ　されば　あり。5めちをうるものい　めて　ぢらき　ところを　きぞとるべし。ぢれ　そのあを　いのちの　ふこより　けさぞして　ぢが　ちちとそのつらひふちとの　まんよ　その　あを　いひ　あとぞさん。6そく　あるものい　みぞものの　ぢるきやうくをのよ　いふ　ところの　ことを　きくべし。7あんぢ　むふざるものの　きやうくをのつらひよ　ふこを　おくりていん、まことのもの、きるき　もの、だびでの　めぎを　もてるもの、するもちされも　とぎす　ことを　えんざるやうよ　ひとき、まくされも　ひとくことを　えんざるやうよ　とぎす　もの　これとの　ことを　いくと、いむく、8ぢれ　あんぢの　おこるひを　ぢる。そよ、ぢれ　あんぢの　まんよ　されも　とぎす　ことを　えんざるの　とを　ひとけり。そい　あんぢの　すこしく　ちちと　ありて　ぢが　ことを　むを　まり　まく　ぢが　あを　いるぎりしよ　ありて　あり。9そよ、さくんの　くをのどうよ　ぞくする

ものども　するもち　ぢらちと　ゆだやびと　ありと　いひて　ゆだやびとよ　あとぞ、いらをりを　いふ　もの、そよ、ぢれ　これをして　あんぢの　あしるとよ　きさり　ふさしめ、めつ　ぢが　あんぢを　あのむし　ことを　ぢれも　ちよ　すむ　ものどもを　こくろえん　ぢめよ　せうのちうよ　きさとんと　する　こくろそのときよ　あんぢを　まもとん。11ぢれ　すそやうよ　いふとん、ぢれも　あんぢの　めんむりを　うむひ　ととぎるやうあんぢ　めてる　ところの　もれを　めくく　ぢもつべし。12めちをうるものい　ぢれ　これを　ぢが　かそのみやの　もしとあさん、めれ　もむやすてん　よりくぐる　あとしき　ぢるきむ、するもち　ぢが　かそのみやそのあ、おるび　ぢが　あとしき　あを　ぢるさん。13そく　あるものいみぞものの　ぢるきやうくをのよ　いふ　ところの　ことを　きくべし。14あんぢとおでけものきやうくをのつらひよ　ふこを　おくりていん、あめん　あるもの、ちうぎ　あるまことの　あらしびと、かそのもの

めいびやくの もと ある もの これらの ことを いふと、いそく、
15 ひれ あんぢの おとなひを ある、あんぢい ひややう あらず あらう
らず。ひれ あんぢが ひやくう あるひい あらうらん ことを ゐめす。
16 あんぢい ぬるくして あらうらず まさ ひやくう あらざるが ゆゑよ
ひれ あんぢを ひが くち より もき いどさんとす。17 あんぢ そが
うらず、ひれい とめり、さうらを えさり、めくる ところ あーといひて、
あんぢい あんどう ある あもれむべき もの、まづーき もの、めくら
まさ もどう ある を ゐらず。18 この ゆゑよ ひれ あんぢよ すくめん、
あんぢ とむ やうよ ゐを もめて ねりくる きんを ひれ より めん。
まさ きもれを きる やう、めい あんぢの もどうの もぢの あらもれ
ぎる やうよ ゐろき ところを めん。まさ あんぢ そる ことを うる
やうめの こうやくを めみて あんぢの めを ぬれ。19 ひが する
ところの ものい ひれ これを とがめ めい ことす。ゆゑよ ねりーんを
もめて くひ あらくるめよ。20 ちよ、ひれ との まんよ さちて くく、
ひれい もーひが こゐを きくて とを ひらび ひれ すくて めれよ

いさり、ひれ めれと ともよ めれ ひれと ともよ ゐよく せん。21 めち
を うる ものい、ひれ めちを えて ひが ちくと ともよ その みぎよ
ぎする げ ごとく ひれ ものれよ ひれと ともよ ひが ぎよ ぎする こと
を えぜーめん。22 そく ある ものい みくゐめ ゐくゐやうくを めよ
いふ ところの ことを きく べし。

第四章 この のち ひれ そて とのて んよ ひらけくるを そくり。ひが
もどめて きける こゐい らめを ごとくよ きこんーげ ひれよ めく
りて いひける い、あんぢ こくよ の ゐれ・ひれ この のち めゐらず
あらん ところの ことを あんぢよ ゐめさん。2 ひれ くどらよ みくゐ
よ めんどて てんよ ねりれくる みぎと その みぎよ ぎする ものと を
そくり。3 ぎする ものい てんどうぎきと こうぎふくの そらけの
ごとし。その みぎの ゐそりよ そどりぎゐの そらけよ めくる あと
あり。4 まく そぎの ゐそりよ あどう ゐめ ぎ ありて ゐろき ころ
ゐを きめ めうべよ きんの めんむりを いさぎくる とーより
どゐ その あどう ゐの ぎよ ぎせり。5 いゐびらり、こゐ、めこゐり

みぎよりいでさり。みぎのまんなかものゆるあゝうのとゆーびあり、これかをのあゝうのみゝをあり。6みぎのまんなかすのあやうよゆゝるぎやまんのうをのごとし。みぎのあゝ、みぎのまもりよ、まんなかうゝうのめをそゝさるようのいきものあり。7むかのいきものいゝをゝのごとし、ざいのいきものいゝおゝゝのごとし、ざいのいきものいゝひとのごときゆゝをもをり、ざいのいきものいゝとぶさゝのごとし。8ようのいきものいゝおのゆゝのむうのつゝきあり、そのうゝおゆをいめをそをり。ゆれゝおちややすゆゝしていひけるい、きゝゆゝゆゝ、きゝゆゝゆゝ、きゝゆゝゆゝ、むゝゝありし、いゆあり、のちよあゝんゆゝ、ゆゝうりきのゆゝをあるきをゝと。9いきものゝどもよゝゝざんざいいけるものすゆゝをもちみぎよざするゆゝよえゝのゝう、ゆゝれ、ゆゝんしやをきするとき、10おゝうよゝゝのとゝゝりどもみぎよざするものゝゝまんなかひれゝゝし、よゝゝざんざいいけるゆゝをもゝゝゆゝおゝれのゆゝんゆりをみぎのまんなかおきていをん、11きをあるゝれゝのかをよ、あゆゝゝが　えゝのゝう、ゆゝれ、けんゝをうゝゝるい　うゝ　ゆりゝ。そいよりてありし　まゝつゝゝれゝり。ざんゆゝいみぎゝちよそちうゝおゆをよゆきてあゝうのいんぎやうをゆりてふうのんこのまきゆゝをゝゝり。2まゝおゆひあるこゆをゆりて、ゝれゝるとゝゝのちゝゝあるてんのつゝひをゝゝり。3ざんよあるゆゝ、ちよあるゆゝ、まゝちのゝゝよあるゆゝをひゝきあるひいこれをゝることをえぎりき。4そのまきゆひよあげきゝり。5ゝゝよりのうちのひをりゝれよいひけるい、あげくあゝれ。ゝゝよ、ゆだのぞゝゝよりいづるとゝゝのゝゝだびのねすぎよゆちてまきゆゝとそのあゝうのふうのんをひゝく　ことをえゝり。6これつひよみぎ、おゝびよゝのいきゆゝ、ゝゝよりあゝゝゝ　えゝのゝう、ゆゝれ、けんゝをうゝゝるい　うゝ　ゆりゝ。そいよりてありし　まゝつゝゝれゝり。ざんゆゝいみぎゝちよ

第五章

これみぎよざするゆゝゝえぎのてよあるまきゆゝ　すゆゝゝるまきゆゝをゝゝり。2まゝおゆひあるこゆをゆりて、ゝれゝるとゝゝのちゝゝあるてんのつゝひをゝゝり。3ざんよあるゆゝ、ちよあるゆゝ、まゝちのゝゝよあるゆゝをひゝきあるひいこれをゝることをえぎりき。4そのまきゆひよあげきゝり。5ゝゝよりのうちのひをりゝれよいひけるい、ねすぎよゆちてまきゆゝとそのあゝうのふうのんをひゝく　ことをえゝり。6これつひよみぎ、おゝびよゝのいきゆゝ、ゝゝよりあゝゝゝ

どものあひだよりそるあものどをさゝり。それがゆゑにてこゝろさ
れるものゝ〜ごとくるーしてあらうのつれ、あらうのめあり、その
めがせちのぢうよおくりさるかたのあらうのみさまあり。7そのの
あものどきさりてみぢよざするものゝ〜さぎのてより まきものを
をうけとれり。8すぢよまきものをとりけれバよつのいきものと
わどうふるんのとーしありどもおのあのことまさきまきものゝ
いのりあるゆうのそちらさるきんのそちをゆうてあものどの
まんよひれふせり。9ゆれら あさとーしきうさをうさふ、いそく、
あるさげまきものをとりてそのふうのんをひとくがうべあり。
そがあるふがゆうてこゝろされまさあるさのちをゆうてすべ
そのぞく、ことば、たを、くものうちよりひとびとをあげるみて
かさよゆへとーしめ、10ゆうこれをとれとのかたのみくふ、さゆ
しとさざめさまんべあり、ゆれとちふおのてたちのするものと
あとん。
11これまさそてさぎ、いきものは、とーしありどものまたりよある

おのさのつうひさちのこゝをきけり。そのゆゑがまんまんせん
せんありけるが 12おのごゝをゆうていひけるが、こゝろされさる
びをうくるがうべあり。13これまさてんおよびちのうん、ちの
ちさ、うさのうんよあるとこゝろのすべてつくとれさるゆは、まさ
そのうちよあるすべてのゆは〜いくるをきけり、いそく、さん
び、わまれ、えのうう、まつりごとがみぢよざするものとあものど
とよよ〜ぜんざのきせん。14よつのいきものは、あめんといひーしうば
とーしありどもひれふーてはのせり。

第六章

あものどあらうのふうのんのひとつをひとくとき これ
そてよつのいきものは〜うちのひとつがゆうさのごとき こゝを
ゆうてきされといふをきけり。2これそてゝろうきうのをそさり、
これよのるものゆうをゆう、ゆれよゆんのりをさまさる、ゆれ
ゆちつ〜まさゆつさあよいでさり。
3まさざのあのふうのんをひとくとき これざのあのいき

ゆれ〳〵 きこえれと いふをきけり。4 まこと いのちひきの あらうな いそ
さり、これは のるものは ちより おそやうをうをひ とり めらひと
びとをーて あひさぐひは ところさーむるの けんゆを さまもる、まこ
めれは おわひ あるつるぎを こまもりさり。
5 まこと ごの さんの ふうのんを ひとく とき これ ごの さんの
いきゆれ〳〵 きこえれと いふを きけり。これ そそ くろき うをを
そさり、これは のるものて は もりを ゆそり。6 これ はらの いき
ゆれ〳〵 あひぐは こゑ あるを きけり、いそく、ぎん ひとらは むぎ
いのーやう、ぎん ひとらは おわむぎ さん おやうをうぐー、あぶと
とふさうーゆをこさとする あられ。
7 まこと ごの おの ふうのんを ひとく ときは これ さの おの いき
ゆれ〳〵 きこえれと いふ こゑを きけり。8 これ そそ あわぐめこる
うをを そさり、これは のる ものく あい おと いふ、おこ めれと
とゆは ゆけり。めれとげ つるぎ、きこん、おゝ、まこちの けゆれを
ゆりて ひとを ころす ことを うる こめは ちの おぶんの いちを

おそい するの けんゆを めれとは こまもれり。
9 まこと ごの ごの ふうのんを ひとく ときは これ さの ごんの
ゆとりて、めらて かこの みことをの こめ、まこ その あらーここる
とおわで おを ゆりて さけびいひ けるい、きこくーて まこと ある
きこは、あおこい ちは すめる ものを さをらぐ まこ これは これ
ゆを めれと おの おのは こまをりさり、めら めれとの ごとく ころ
されんとする ところの どうやく おるび きやうさのどものの めをの
こうる まを おをとく やすんぐ べーと いそれさり。
12 まこと ごいろくの ふうのんを ひとく ときは これこーうば おわひ
あるぐーん あり、ひい けの あとき きゆれ〳〵 ごとく くろく あり、
つきの せんめんい ちの ごとく あり、13 てんの わーい いちどくの
きげ おわらせは ゆとる〳〵 とき いおご おゆくをぐる みを おとす
ごとくちは おちさり。14 てんい まきこる まきゆれ〳〵 ごとくは すぎ

さり、すべてのやまとなまいそのところよりうつされさり。15ちの
ふうさち、さのときひと、せんまんの　ものゆうー、とある　ものゆうー、
まさすべてのどれの、ぶゆうの　ものそうらと　あるおよびやまの
いもよ　めくれて　16やまといもとよ　いへり、ふれとの　うへよ　おち
ふれとを　めくして　みぎよ　ざする　ものと　あるつどの　いろ
りを　さけしめよ。17そいその　いろりの　おをひ　あるひすぐよ　いさ
れば　あり・されらさら　ことを　えんや。

第四章

ふれこののち　よるんの　てんのつらひちの　よせそよ　さらて
めせげちの　うへ　あるひい　うさの　うへ　あるひい　きの　うへよ　あろ
ざる　やうちの　よつの　めせを　ひき　とどめ　をるを　そさり。2まさ
いける　かさの　いんぎやうを　もちて　ひげー　よりの　ぶれる　つらひを
そさり。めれ　おをどあよ　よむさりて、ちとうさを　そさるふの　けん
あを　さまもりさる　よるんの　つらひさちよ　いひけるい、3ふれとの
かさの　ぶゆべどものひさひよふれとげ　いんを　おす　まぞいちある
ひい　うさ　あるひい　きを　そさるふ　あるれ。

4ふれ　いんを　おされー　ものー　めすを　きけり、いせいそるのあど
ものすべてのぞくの　うちうて　いんを　おされー　ものいのびやく
ぶどう　ぶせんまん　あり、5すあもち　いんを　おされー　ものゆだの
ぞくより　おうません。るべんのぞくより　おうません、6めどのぞく
より　おうません、あせるのぞくより　おうません、あぶたまのぞく
より　おうません、まあせのぞくより　おうません、7しみおんのぞく
より　おうません、きびのぞくより　おうません、いさあるのぞく
より　おうません、8せぶろんのぞくより　おうません、よせふのぞく
より　おうません、べにやみんのぞくより　おうません　いんを　おされ
さり。

9こののち　ふれそて　されあ　めぞへ　えぎるあどの　おをひある
くんどうを　ささり・めれとい　すべてのくふ、すべてのぞく、たと
ことをの　うち　よりきさり、ぶろき　ころあを　き、てよ　ぶゆろの
えぎを　ゆち　みぎと　おをつどの　まんよ　さちて　10おをどあよ　よむ
をりて、すくひの　めぐさい　みぎよ　ざする　ところの　ふれとの　かさと

おもつどよありといへり。11 ゆらすべそのつらゆさちれみぎ、とし
ふりども、よつのいきものをめぐりてさちみぎのまんよおのて
ちよひれふー かそををゆさていひけるい、12 あめん・さんび、えの
うう、ちゑ、めるーや、ゆまれ、けんる、ちらとい よ〜ぞんざい
かそよ きせよ、あめん。

13 とーこりのひとりとれよ めうりていひけるい、この ちろき
ころもを きさる ものい それぞや・いづく より きさるう。14 とれ
めれよ、きそよ、あんぎ これを ちるといへり。めれとれよ いひ
けるい、めれとい おゆひ ある あやそのうち より きさり おもつど
のちを ゆりて そのころもを あとひて これを ちろくーさる ものの
あり。15 ゆあよ めれとい かそのみぎのまんよ あり、めつ ゆちや
その みやよ おのて かそよ つらふ・みぎよ ぎする もの めれとの
うへよ まくやを ひろげん。16 めれとい ゆはや うゆぎ、ゆはや めと
うぎ、まく ひゆ あらさゆ めれとよ あらとぎ。17 いうんと あれば
みぎの まんあうよ をる おもつど これを めひ、めついのちのそば

の そあゆとよ さちびき、まく かそそのめより すべそのあそぎを
ぬぐひ とれば あり。

第八章　まく ざの ちちの あうのんを ひとく とき おゆを もんど
うん てん ちびう あり き。2 とれ かそのまんよ ちをる ちちまんの
つらひさちを ささり、これよ あーつのらりぎを さまをる。3 まく
ちをり。めれ おゆくの めうを あくんとれさり・これ すべそのきよ
き ゆめー いのりよ そんて みぎの まんよ ある ところのきんの
ざのぎんの うんよ さーげん さめ あり。4 めうの けゆりきさゆき
ゆめー いのりよ そひて とゆよ つらひの てより かそのまんよ
あり て ちよ あげーうば めそあり、こゑ、いあびうり、および ぎーん
あり ー。6 こーよ おのて あーつのらりぎを ゆをる ちちまんの つら
ひさち ふく さめよ そびうとよ ようのを あーさり。7 ざの いちの
つらひ ふきければ へうと ゆあり、ちと とゆよ まぎりて ちよ あげ

よれさり、ちの さんぶんの いち やけ うせ、きの さんぶんの いち やけ うせ、および あをくさ そら やけ うせさり。

8 ざの あの つちひ ふきければ ゐの ゆゆる おわひ ある やまの ごとき ゆれ うごき あげ よれーげ うごの さんぶんの いち ちよ めも れり。9 うごの あらの いのち ある どうぶつ さんぶんの いち ふ〜さり、めつ ふねの さんぶんの いち わちびさり。

10 ざの さんの つちひ ふきければ とゆーびの ごとく ゆゆる ところの おわひ ある わー てん より おちて めもの さんぶんの いち および そらの そらゆとよ おちさり。11 その わーの あい いんちんと いふ、そら さんぶんの いち いんちんと ゐれり。ひとびと そらの あげく ありーを ゆりて おわく ふせり。

12 ざの その つちひ ふきければ ひの さんぶんの いち、つきの さんぶんの いち、わーの さんぶんの いち うごれさり。これ その さんぶんの いち ちよく あり、めつ ひる さんぶんの いち ひらり あく、ふらゆ めくの ごとく あよん さめ あり。

13 これ そて そよの ゐんゐよ とぶ ひーげ おわど ゐを ゆりて、のこりの さんぶんの つちひ ちの ゐぐよ ふちんと するらめ その こゐの さめよ ちよ すめる ゆのい ひぐそひ ある めゐ、ひぐそひ ある めゐと いふを きけり。

第九章 ざの その つちひ ふきければ これ てん より ちよ おちくる わーを ちくり、これよ そこ あき あゐの めぎを さゆる。2 〔めれ そこ あき あゐを ひよきーちば〕 おわひ ある めゐどの けむりの ごとき けむり その ある より の ゐりーげ ひと くうきい あゐの けむりの さめよ くよく ゐれり。3 いゐど けむりの ゐちよりちよ いぐさり、ちの さそりの ゆる ちちよの ごとき ちちよを これよ さゆる。4 めつ いそれさり、ちの くさ、あるひい あをゆれ、ある ひい きを がいする ゐちれ、さぐ ひるひよ ゐその いんぎやうの ゐき ひとを がいを べーと。5 ちれどゆ これを ころす ことを ゆる されず さぐ いつ〜きの ゐひぐ くるーむる ことを ゆる されさり。その くるーそゐ さそりの ひとを ころす ときの くるーその ごとし。

6その ころ ひとびと おを ゆとめん、されど えんざるべー・おおん
ことを わりすれども おらい めれとよりあげん。7いおどの すがさい
いくさよ そおゆる うおよ おさり、その めーとよい きんの めんむ
りめ ごときめれ あり、その めおい ひとの めおの ごとー。8うさい
をんおの ちその ごとく、もい おくの もの ごとー。9むおあてい
てうの むおあての ごときめれ あり。その つむさの おとい さうう
ひよもゆく おおくの うおの ひくさうおの おとの ごとー。10をい
さをりの をの ごとくよーて もり あり、まくさをの うちよ いつく
きの あひぐ ひとを がりするのけんる あり。11めれとのうんよ そう
あき あおの つうひおる さう あり・その あい へぶるの ことむうて
あばどんと いふ、きりおおの ことをうて あばどおんと いふ。12ぐの
いちの ひぐもひい すぎさり・そよ、この のち ふさうの ひぐもひ
きさふんとす。

13ぐのちくの つうひ ふきければ ひれ おそのまんよ あるきんの
さりぐおの つれ より いづる こお ありて、ちりをゆする さい
ちくの つうひよ いつうをきけり、いたく、14おおひ あるめを ふつう
よつおぐれをる よおんの つうひどおを とけふと。15さて ひとびと
とーの ふめよ そおへとれくる よおんの つうひどお とうれくり。
16きをの ぐんをりの めをい おまん まん あり、これ その めをを
きけり。17これ めくの ごとく まがちーよ おりて うおと これよ
のる おのとを ちくり・その むおあてい お、あうぐま、いをうの
をう その くち より いづ。18この さうの さりおん すおをち その
くち より いづる ところの お、けむり、いをうよ よりて ひとびと
の さんぶんの いち ころされくり。19うおの ちうふい その くちと
をよ あり、その をよ へびの ごとき めーと あり、これを もりて
がりを あす。

20この さりおんよ おりて ころされざる のこりの ひとびとい あく
まま さる ことお、きく ことお、あゆむ ことをお えざる ところの

きん、ぎん、ぶんちう、いー、きの ぐうぎうを をげおぎる やうよ
その てのつくりさる ひぎを くひ あらさめぎ。21 おさひとぐろー、
あらゆう、ぎりつう、ぬきこを くひ あらさめぎりき。

訓讀 これまさわらの つるき てんの つらひの くもを きて てん
よりくぎるを ささり。その めーしのうんよ あり、その めわい
ひの ごとく、あーい ぬの ぎーしの ごとー。2その てちい ひらき
さる ちひさき おきもれを もち、そぎの あーを うさよ おき、ひざり
の あーを ちよ おき、3おーの わゆるげ ごとき おわごあを もりて
さけびさり。さけびをもりーしらば おーつの めさりの こあを
もりせり。4おーつの めさりこあを もりせー とき これを
めーんと せり。こーよ おりて てんより これよ いんる こあをきけ
り、いもく、あんぎ おーつの めさりの いふ ところの ことい これ
を ふうのんーて めく あられと。

5これげ うさと ちよ さてるを さー ところの つらひ そぎの てを
あげ てんを さーて、6よーぎんぎいいける もの すあもち てんと

そのうちの もれ、ちとその うちの もれ、うさとその うちの もれ
を つくりさる ものを さーて ちらひ いひけるい、ももや ときを
のぎさぎ。7さぎ ぎいのおちの つらひの ふらんとする ところの こあ
ある ときよ かその おくぎい その おゆど あるよげんーやどもよ
さおもりさる さいのものの おとびれよ おさげんて まゆさく ある
あり。

8これげ てんより きさー ところの こあ おる これよ めさるを
きけり、いもく、ゆきて うさと ちよ さてる ところの てんの つら
ひの てよ あるひらきさる ちひさき おきもれを とれ。9これ つのよ
てんの つらひよ ゆきて、これよ ちひさき おきもれを あさんるとよ
いへり。めれ これよ いひけるい、あんぎ とりて これを くらひ
つくせ、それい あんぎの ぎーを あげくぎぜん。されど あんぎの くちよ
ありていそのの ごとく あおらりん。10これ つらひの てよりちひ
さき おきもれを とりて これを くらひーらば これげ くちよ ありー
ときい さつの ごとく あおらりー。されど これを のを こさーらば

ヒゲ もと あげくなれり。11これよ いふ ものあり、いもて、あんぢ
ゆめ ふと ぎ まる ゆろゆろの たを、くふ、ことゆめ ひと ぎと、まる
おわくの ちうくちよ つのて よげん すぐーと。

第三十三章

つえよ おさる よーを さげけて ゆくる こゑ あり、いもて、
あんぢ おきて かをの みやと さのさん およびそこて をげむ ゆの
とをもられ。2されどみやの そとめ おもい これをのこして もらる
あられ・そい いどんよ さゆもりられば あり。ゆれと ちどう あらげ
つの あひぢ きふき みやこを ふを あと さん。3これ ヒゲ ふくりの
あらしびとよ けんゆを あさへん、ゆれと あと き きゆれを きて
いりせん あひやくろくどう あちの あひぢ よげん すぐー。4これら
ふくつの ゆんと ん の きゆーて ちの きをの ゆへよ くら ところの
ふくつの ちよくぢのあり。5これら ゆー これをがのせんとわりー
あば ゆ その くち より いぢく ゆくきの ゆのどゆを わろぢさん・
これをがのせんとわりする ゆの あと ば その ゆのわ ゆくの ごとく
ころさる べー。6ゆれと ん よげん ちる あひぢ あゆ ふと ぢる やう

てんを とぐるの けん あり・まる そぢを ちよ ゆをと せ、ゆく その
わりする ごとよ すぐて の さの ゆんを ゆりて ちを うつの けん あり。
7ゆれと その あろーを あー をを ゆる とき よ そこ あき ところ より
の ぢる けゆ れ ゆれと と ふくろひを あー ゆちて これを ころさん。
8その ちろぢねい くとんを ゆりて そどむ えおぷと と とゆーある とこ
ちの おわひ ある みやこの ちゆこ すゆを ち ゆれと の きこの ちり
つけと れこる ところよ のことん。9たを、ぞく、ことば、くゆぐゆの
うちよ そりち ちんの あひぢ ゆれと の ちろぢねを こる ゆの ありて
その ちろぢねを ちよ わうゆる ことを ゆるさず。10ちよ すめる
ゆのどゆ これば くめよ よろこび ふの ーこて たげひよ おくりゆれを
おくと ん・そい この ふくりの よげん ーや ゆりて ちよ すめる ゆの
どゆを くる ーめくれば あり。
11そりち ちん すぎて かをより いぢくる いのちの いき その ふく
りの ゆのよいり ーちば ゆれと あ ーゆて くて り、これを くー ゆの
どゆの こくちよ おわひ ある おそれ おこれり。12あち ーびと てん